

アイヌ、その理解のための覚書



日本社会には、日ごろ私が意識することのない歴史や価値観を意識続けている人々がいる。しかも彼らは日本国民ではあるが「日本人」ではない。

Common Sense 2015.5

佐藤 陵一

moiwaryo@gmail.com

はじめに

私はアイヌ問題に関心をもってきたが、その理解は「一知半解」に過ぎるとずっと感じてきていた。こうした中、札幌市議会議員による「アイヌ民族なんてもういないですよ」との発言¹が飛び出した。

そして今回、地方選挙で全立候補者に対する札幌アイヌ協会の「あなたは何人か」から始まる公開質問状を目にすることになる。何が問われているのだろうか。「正解」を自問自答することになったのである。

私のパスポートは「日本国民である本旅券の所持人を通路故障なく旅行させ…」となっている。そこには日本人²の言葉はない。この文脈ではアイヌも日本国民である。現在の国家概念からは、アイヌは国籍という意味で日本国民である。だがそれはイコール日本人とは言えない問題を含んでいる。

日本社会には、日ごろ私が意識することない歴史や価値観を意識し続けている人々がいる。しかも、彼らは私たちに「あなたは何人か」と問いかけ、「正解」を期待している人々である。

実は私には原罪のような記憶が残っている。苫小牧で小学校に入学したが、「アッ、アイヌ」と友だちを囃し立てた記憶である。労働運動に身を投じ、「全日自労新冠建設分会」(写真)の立あげに関わることになる。

沖津虎二さんを知り、新冠のアイヌの人たちにずい分と懇意にしてもらった。組織化は「アイヌのたたかう組織が必要なんだ」と当時の折居公憲書記長の強い指導によるも



のであった。この経験の中で、私はアイヌという言葉を彼らの前で口にすることを避けてきたように思う。「偏見」がそうさせたのか、いまでも一言では形容できない。

この拙文は、私がアイヌをとらえ直し、「ああ、そうだったんだ」とアップグレードし、誤った認識を氷解させたいという自らの覚書である。

1. アイヌのそもそも—古代からアイヌ文化成立まで—

アイヌという呼び方

アイヌという言葉は「人間・人」を意味し、アイヌの他民族に対する自称である。自らを「人間」と称する例は珍しくない³という。

¹ 金子快之(やすゆき)札幌市議(みんなの党→自民党→除名→2015年落選)
(2014.8.17Twitter)

² 日本人の言葉には、①「ヤマト王権」以来の歴史にアイデンティティーを持つ人々を指す意味、②

現在の日本国民を指す二重の意味がある。(「アイヌの歴史」-日本の先住民族を理解するための160話、明石書店、平山裕人)

³ 自らを「人間」と称する例は、イヌイト(俗称、エスキモー)、ニブフ(以下同じ、ギリャーク)、ウ

アイヌ自らが「自分はアイヌ」と意識し、他との関係でアイヌの呼び方が成立する。したがって「あなたはアイヌですね」という言い方は正当であるとされる。

差し詰め、この論に依拠しながら私はアイヌと呼称していくことにする。

他方、アイヌと呼ぶことには異論⁴が存在する。

アイヌ協会は半世紀近く、ウタリ協会と称してきた。「アイヌという民族の名称が、シャモによって『差別用語』として使われ、アイヌ民族の多くが抵抗感を持っていたためアイヌ用語で『仲間・同胞』を意味する『ウタリ』という呼称が用いられた」⁵のである。

民族としてのアイヌが自らと異なる民族に出合った時、彼らは自分たちが住むところを「アイヌモシリ」と言った。「モシリ」⁶は「世界・大地・土地・国・島」等の意味があり、「アイヌモシリ」は神の世界である「カムイモシリ」に対する人間の世界を意味している。

「シサム」は「隣人」の意味で「シ・サム・ウシクル」（自分の・傍らの・人）の省略形である。南の隣人は、和人であった。和人は、アイヌ民族が出合った異民族のうちの一つに過ぎなかった。この指摘にドキッとす。

イルタ（オロッコ）、イテリメン（カムチャダール）、サーメ（ラップ）など、珍しくない。（平山裕人）

⁴ 「アイヌ民族をアイヌと呼んでいいのか」という質問をしばしば受ける。「私が答えることではないので自分で考えて下さい」と返事することになっている。（木戸宏、アイヌ民族と共に生きるシサムの会代表、「アイヌの本」宝島社）

⁵ アイヌ協会は半世紀近く、ウタリ協会と称していた。1930年 北海道アイヌ協会設立→1945年 社

こうして見ると、アイヌ決して日本列島の北辺に孤立していたのではない。北東アジアの諸民族と接触し、交易や文化交流によって、北海道を中心として、サハリン島南部、千島列島、本州東北部におよぶ広大な地域で、固有の言葉や文化をもって集団を形成し、独自の歴史を歩んできたのである。

「シサム」はやがてなまって「シャモ」となる。「シャモ」は侮蔑である。その背景には隣人が狡猾な侵略者と変貌していった歴史があるのである。

和人の「侵略者として変貌」にアイヌ史を理解する視点があるような気がする。

「マンモスハンター」がやってきた



日本列島は氷河期には大陸と地続きであった。

図⁷は約20,000から18,000年前の海岸線である。温暖化で海面が

団法人北海道アイヌ協会設立→1961年 北海道ウタリ協会に変更→2008年、再び北海道アイヌ協会に戻る。

（「先住民族の苦難・抵抗・復権 アイヌ民族と日本の歴史」宮島利光、三一書房）

⁶ 私の父は一時期、キタモシリ（北母子里）小中学校の公務補をしていた。

⁷ 「ジュニア版、北海道の歴史」（榎本守恵、北海道新聞社）

上昇し、約 16,000 年前に対馬海峡と津軽海峡が消え、約 12,000 年前には宗谷海峡も海面下に没した。北海道は海に囲まれた島となったのである。

他方、現在、サハリン島と大陸との間には間宮海峡（タタール海峡）が横たわるが、その距離は最短 7.3 km である。アムール川が結氷すると橇そりで交通が可能となる。大陸文化がサハリンを経由して北海道に伝わって来たのである。

日本列島に「新人」（ホモサピエンス）が現れるのはおよそ 40,000～30,000 年前の後期石器時代⁸である。しかしこの時代、列島全体のどこに、どんな人々が住んでいたかは、よく分かっていない。

北海道にはマンモス象などの化石が出土

たと思われる。

日本において私たちの「祖先の姿」をハッキリ見ることができるのは、縄文時代からなのである。

北東アジアにつながる遺跡と出土品

北海道の最古の人類の足跡は、石器の年代測定から約 25,000 年前と言われている。

海岸線が今より 200 メートルほど低かった。最初に、時代区分の考え方¹⁰（図）を見ておきたい。

〔旧石器時代〕

旧石器時代とは、人類が旧石器をつくり

時代区分	旧石器時代	新石器時代	青銅器時代	鉄器時代
ヨーロッパ標準	打製石器のみを使う 狩猟・採集社会	磨製石器や土器を使う 農耕・牧畜社会	青銅器を使う 農耕・牧畜社会	鉄器を使う 農耕・牧畜社会
日本的な特徴	同上	縄文時代は磨製石器や土器を使うが、狩猟・採集社会	青銅器と鉄器がほぼ同時に伝わる。 農耕社会	
アイヌ社会の特徴	同上	同上	鉄器が大量に流入し、石器使用をやめる。狩猟・採集社会	

⁹する。遠くシベリアから陸続きに「マンモスハンター」がやって来ていたのである。ただし、アイヌ民族と関連付けることは適当ではない。「マンモスハンター」は少数であり、すさまじい移住（混血）を繰り返してい

始めた時から新石器をつくり始めた約 1 万年前までのことである。旧石器時代は、途方もなく長く、考古学区分により前期、中期、後期に分けられている。

⁸ 「日本人はるかなる旅」（国立科学博物館とNHKの共同企画、2000.1）では「日本列島は何度か陸続きになっているが、数十万年前には『新人』が歩いてやってきた可能性があり、数万年前には人々が舟で海峡を超えてきたでしょう」と述べ、旧石器時代、日本は大陸から強い影響を受けていたとしている。なお「新人」とは 15～20 万年前にアフリカで誕生したホモサピエンスの直接の子孫のことである。

⁹ マンモス象はシベリアで約 4～2 万年前ころに生息していた。えりも岬や夕張で臼歯の化石が見つかっている。南方系のナウマン象は津軽海峡でストップと考えられていたが、1969 年虫類村で発見された。（榎本守恵）

¹⁰ （平山裕人）

日本列島の旧石器文化は後期段階しか確認されていない。酸性土壌のため人骨の発見があまり期待できない¹¹からである。

□北海道内で旧石器は 530 ヶ所で発見されている。

- ・祝梅三角山遺跡(千歳 21,450±750 B.B.)
- ・南茅部白尻遺跡の石器
- ・忠類村ナウマン象の臼歯化石とともに加工した疑いのある角礫が見つかる。

□札幌市内では 16,000 年前の遺跡¹²が出土している。

□旧石器のメッカは白滝遺跡群である。(20,000～15,000 年前) 黒曜石でつくられた細石刃の遺跡が多く密集し、また完成品とともに石屑が出土している。

細石刃は、知らない人には石の「カケラ」にしか見えない。今回、使われ方を「カッターナイフのような替え刃式石器」(写真)だと初めて理解した。「帯広百年記念館」は親切である。白滝の採石場は 6,000 年にわたり活用され、道内はもとより、サハリン、シベリア、三内丸山に及んでいる。

細石刃は東アジア大陸(シベリア、モンゴル、中国北部、カムチャッカ半島)で 3,000 年以上前から使われていた。

日本の細石刃文化期の遺跡は、全国で優に 500 個所を超える。特に遺跡密度が高い

のは北海道と九州で近畿地方では遺跡数が極端に少ない。

〔新石器時代—縄文時代〕

縄文時代はヨーロッパ標準の時代区分では新石器時代に区分

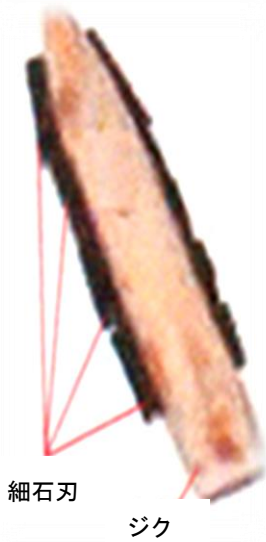
される。磨製石器や土器を使い、ヨーロッパ的には農耕・牧畜社会であるが、日本は狩猟・採集生活であり、これは日本的な特徴である。

アイヌ社会は石器の使用が終わり、青銅器・鉄器時代に入ってもなお、狩猟・採集社会であった。この点はアイヌ社会を認識していく上での基本である。

縄文時代は、土器の編年により 6 期¹³に区分されている。よく考古学の本で目にする遺跡・遺物がどれくらい古い時期のものなのかを押さえておきたい。

〔草創期〕に土器の使用が始まる。

□北海道で最も早いグループは、貝殻を押し、引きずって施文した文様の貝殻文・条痕



¹¹ 「日本人はるかな旅」

¹² 旧白石村役場の遺跡。「札幌埋蔵文化センター」の展示)

¹³ 草創期 | 15,000 年前
早期 | 10,000 年前

前期	7,000 年前
中期	5,500 年前
後期	4,500 年前
晩期	3,000 年前
弥生文化	2,300 年前

(「札幌埋蔵文化センター」リーフによる)

文系土器群である。ただし文様は共通するが、器形は大きくことなり、南西部の尖底土器文化圏と東北部の平底土器文化圏（写真、帯広八千代A遺跡、帯広百年記念館）があい



対峙していた。境目は石狩－苫小牧を結ぶ線が分離帯となっている。

これら3群は、東日本縄文文化の枠組みにあった。なお、道南と道東の縄文文化の違いは、北海道の縄文文化の特色である。

【早期】には竪穴住居が造られ、土偶がつくられる。

□縄文早期の半ば、道東東部に石刃鏃せきじんぞく（小型石器を加工した矢じり）を持った特異な文化が道東北部に広がっている。

【前期】の中頃から、大規模な貝塚が形成される。本州も同様である。

□気温が現在よりも2℃ほど高く、「縄文海進」が起きていた。貝塚が数多くつくられ、全道で大小120カ所に及んでいる。展示ではよく、男は狩猟、女は浅瀬で貝を獲り、貝塚の近くの竪穴住居でくらしている姿がイメージされている。

- ・伊達沿岸では貝塚が縄文から近世まで連続している。人骨が多数出土し、縄文人の形質や変遷を知ることができる。
- ・千歳、美々5遺跡では幼児の足形のついた2個の土版の発見されたが縄文人の一生における儀礼と関わると考えられる。
- ・東釧路貝塚では動物遺骸が多数出土し、ベンガラを振りかけるなど特別の扱い¹⁴をしている。後世のアイヌの「物送り」の祖型との指摘¹⁵もある。

□円筒土器文化は東北地方北部の縄文前・中期を代表するが、これは石狩低地帯にまで進出している。

【中期】も引きつづき温暖であった。

□土器は、道南西部が円筒上層文化圏に、道東北部が北筒式土器文化圏と石狩低湿地帯を境にして相対しやや遅れて道央部に余市式土器文化圏が成立する。

¹⁴ 例えばイルカの頭蓋を放射状や板状に積み重ね、火をたき、ベンガラを振りかけるなど。貝塚は、縄文時代の豊富な食生活を物語っている。

貝類はアサリが70%。カキ、オオツノガイ、ウバガイ、ホタテガイ、ヒラメエゾボラ、チシマタマガイ。

魚類はサメ類、チョウザメ、ニシン、イワシ類、サケ・マス類、ウグイなど20数種。ニシンが最も多い。

海獣はトド、アシカ、オットセイ、イルカ。

陸獣はヒグマ、エゾシカ、オオカミ、家犬。

鳥類は、ワシ・タカ、ガン、カモ、アホウドリ、ミズナギ鳥。タンチョウは未確認。（「日本の古代遺跡」）

¹⁵ 「日本の古代遺跡」（森浩一企画、野村崇著、保育社）における沢四郎の主張。

□ シャチ¹⁶型土製品が
桔梗 2 遺跡（函館）
から出土した。



□ 環濠遺跡（厚真町）
は深さ約 2 メートル、全長 138.5 メートル
の堀で囲んだ環濠をもつ集落である。住居
跡には、土器や石器の道具がなく、「生活の
においに乏しく」、祭りや儀礼の場と考えら
れている。

□ 萩ヶ丘遺跡（江別）はアイヌに見られる
「物送り場」的な遺構が見つかった。

□ エトロフ島の北円筒式土器 - 従来、南千
島諸島は根室方面との関連が指摘されてい
たが、北円筒式土器の出土により、縄文文化
の圏内にあったことが明確にされている。

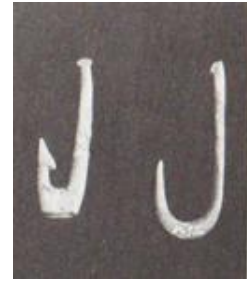
□ 中期初頭（約 5,000 年前）を中心とする遺
跡では青森の三内丸山遺跡が他を圧倒して
いる。三内丸山は北海道西部と同一文化圏
であった。山内丸山からは住居、墓、倉庫、
矢倉、ゴミ捨て場が密集して確認され、
40,000 箱の土器が出土している。



遺物には北海道、長野の黒曜石の鏃、秋田の
アスファルトが付着した鏃、新潟県のヒス
イ玉、岩手県のコハク原石、琉球列島のイモ
ガイをまねた土製品が発見されている。

三内丸山は北の交易センターであり、拠
点であった。¹⁷

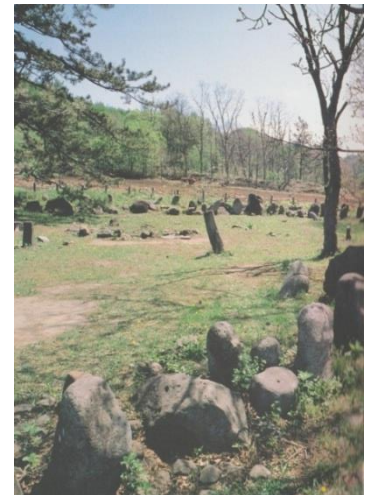
□ 「入江貝塚」
（虻田町）は道内
最大規模の貝塚で
ある。骨角器製品
にすぐれたものが
多く、組合せ式の
釣針（写真）は技術が高度である。実物を見
てみたいものである。



【後期】から【晩期】にかけて、共同墓
地が盛んに造られる。地表面に墓地を営む
目的で墓壙群がつけられた。

□ 環状列石（スト
ーンサークル¹⁸、
写真は忍路環状
列石）は縄文時代
の石造記念物と
して第一級の
趣がある。

・ 環状土籬
（周提墓、
千歳美々）
は、集団墓地



¹⁶ アイヌは、シャチはクジラをもたらしてくれる
「沖の神」と考え、ユーカラにも登場する。縄文時
代にもシャチが重視されていたと考えられる。（北
海道埋蔵文化センター）

¹⁷ （「日本人はるかなる旅」）

¹⁸ ストーンサークルは、本州中央高地に出現し、
東北、北海道に広がった。（平山裕人）

である。直径

数メートルから 30 メートルの円形の竖穴を掘り、その土を周囲に土手（堤）状に盛りあげ、中に個々の墓をつくる。「石棒」を地上に配し、墓標の役割を果たしている。

- ・キウス環状土籬（千歳）は、日本最古の縄文時代最大規模（外径 5m、高さ 5.4m、円周 150m）の構築物である。建造には多くの労力が必要であった。

□中空大土偶（写真、南部茅部町、全長 41.5 cm）は、小坂アエさんが、ジャガイモを収穫中、クワの先に土偶が当たり、発見された。土壌墓の副葬品と考えられている。



□異形環状土器（写真長沼、高さ 29.8 cm）からは、赤色に塗色された奇妙な土偶が出土した。東北から北海道に搬入されたものである。



□1,600 年前頃。「手宮の古代文字」「フゴッペの洞窟」の彫刻が残される。手に杖のようなものを持った人や四角い仮面のようなものをつけた人が描かれている¹⁹。北東アジアのシャーマンを描いたとする説が有力である。

【晩期】は気候が現在とあまりかわらない。

□札幌遺跡（木古内町）－東北・北海道をふくめた亀ヶ岡文化期の集落構造がはじめて明らかにされた。

□ママチ遺跡（千歳市）から縄文人の男の成人を表現した土製仮面（写真）が出土する。葬送儀礼に用いられたと考えられている。



□縄文文化は鉄が入っていないが定説だったが、ソラマメ大の「鉄片」の検出が釧路市貝塚町で「鉄片」発見がされた。

□「縄文の道」－約 2,300 年前に噴出した樽前山の火山灰を取り除くと、縄文晩期の 1 キロの人間の道とケモノ道が残されていた。

北海道に人が住み始めたのが約 25,000 年前、発見された土器は約 12,000 年前の古さものである。とても「大昔」の一言では形容しがたい。

日本の確かな旧石器遺跡・遺物は旧石器時代後期しか確認されていない。やはり「神の手」はねつ造だった。

日本人とアイヌの起源を「もうひと掘り」

想像よりはるか前から日本列島に人々は住みついていた。しかし、これらの人々のこ

¹⁹ （平山裕人）

とは、実はよく分からないことが多い。

日本人全体の「祖先」とアイヌとの関係を「もうひと掘り」する。

「祖先」についての二つの学説

(1)「原日本人」説がある。これは、縄文人が、日本人の共通の祖先＝「原日本人」であるとする。

縄文人は、四角く立体的な顔で、小柄ながら筋肉質の身体つきをしていた。

中国、朝鮮半島から渡来してきた弥生人の顔は長く、平坦な顔で大柄らだった。渡来系弥生人は、九州北部から列島各地にひろがり、縄文人と混血し、「本土人」の主体を形成していった。渡来系弥生人の影響が少なかった北海道と沖縄では、それぞれアイヌと琉球人が縄文人の姿形を色濃く残しながら、独自の文化を築いていくことになるという説である。

(2) これに対し、「日本列島には、人々の移住により、いろいろな遺伝子が外から入ってきた。それぞれ違った傾向を示している。

①日本人の祖先集団は、決して一つや二つではなかった、②琉球人は本土日本人や韓国人とは似ているが、アイヌとは似ていない、③逆にアイヌと琉球人は共に縄文人の

子孫なので類似していて、その起源は中央アジアという考え方²⁰である。

j (3) 二つの学説は、日本人全体の「祖先」探しのことであるが、アイヌの場合はどう言えるのだろうか。縄文時代の日本人が、北方系と混血してアイヌ人となったという説を「もう一掘り」する。

①「母語」であるアイヌ語から祖先を探る。アイヌとは、「アイヌ語²¹を母語とする人々」であるといえる。「母語」とは人間の集団が、同じ言葉を使って意志を伝え合うことであり、それは歴史的な連続性もっていることが重要である。

アイヌ語は、日本語の方言ではない。アイヌ語はいつから出現したのか。アイヌの祖先をさぐる一つの手がかりとなる。

アイヌは文字を残していないが、和人が文献資料を残している。これによりアイヌ語の単語を確認できるのは 15 世紀までである。7～8 世紀以前にもアイヌ語が話され、アイヌ語の地名²²があったが、文献でさかのぼれるのはここまでである。

金田一京介は、東北地方にアイヌ語地名が多くあることを見つけ、古代蝦夷はアイヌだといひ続けた学者である。

²⁰ 「日本人はるかなる旅」の「第5章そして日本人は生まれた」による説明。

²¹ 母音は5つで同じだが、子音の数は少ない。現在形や過去形がない。「アイヌ語はどこから来たのか」はまだ確かなことはいえない。なお、語順はほぼ同じである。

トアン レタラ チャペ チエプ エ コロ アン ナ
あの 白い ねこ 魚を 食べて いる よ

(「アイヌ文化の基礎知識」草風館)

²² アイヌ語地名は、山形・秋田の県界以北、宮城県北部以北に濃厚に残存している。4～5世紀の北海道系土器が宮城県北部にまで展開している。エミシの言葉をヤマト王権が「蝦夷語」と呼び、「訳語人」(通訳)が存在した。

(「アイヌ民族と日本人」、菊池勇夫、朝日選書)

②DNA²³解析からアイヌの祖先を探る。最近のDNA（遺伝子を構成する物質）解析はいちじるしく発達している。これにより、日本人の起源とその中でアイヌの位置が明らかになってきた。なお、注意すべきは、DNA鑑定による「アイヌの体質がどのようにつくられたか」ということと「アイヌ文化はどうつくられたか」、すなわち「体質」と「文化」の話は、まったく別に考えなければならないのである。

DNA解析の結果は衝撃的なものであり、アイヌの祖先がかなり鮮明に浮かびあがる。

- a. 北海道の縄文人がアイヌの直接の祖先である。オホーツク文化人や「本土和人」の影響を受けてアイヌの体質がつくられていった。
- b. 北海道の縄文人と沿海州の先住民の遺伝子は、共通のものが多く、東北地方の縄文人の遺伝子とも近い。関東の縄文人とは離れていく。
- c. 「朝日」にアメリカ先住民の記事が出た。「2万年前頃、陸続きになっていたベーリング海峡付近に、アジア系の集団が移住。現代のアメリカ先住民の祖先となる遺伝的特徴をもった集団が誕生した。」

²⁴アイヌと「親戚」とはロマンあふれる話である。

鉄器と農耕革命が「国」を誕生させる

□新石器時代の東アジアには、農耕民も、遊牧民も、狩猟採集民もいた。そしてこの新石器文化の終わり方には二つの型があったといわれる。

一つは気候が温帯地域では、農耕革命が「王朝国家」²⁵を出現させ、いわば短期間に新石器文化を終わらせていった。中国、日本、朝鮮がこれにあたる。

他方、二つは冷帯地域²⁶では、狩猟・採集社会を続けながら、周辺国家と交易する中で、時間をかけて新石器文化を捨てていった。アイヌ文化がこれにあたる。

□鉄器の所有は農耕をスムーズにさせ、大規模化させ、その所有者は集団内で権力を持つようになる。世界史的には大河のもとに「王朝国家」が誕生する。この時、中国の歴代王朝の「中華思想」²⁷の北東アジアへの影響を注意深く見ていくことが重要である。漢王朝（BC202年）は400年以上も続くのである。

²³ このDNA鑑定は骨を傷つけないと研究できない。北大など今も多くの人骨が保管されている。学問研究の名のもとに、盗掘したアイヌ人骨や、だましてとった血液を材料したなど、問題解決が迫られている。

²⁴ 「アメリカ最初の人類」（「朝日」2015.5.3）

²⁵ 夏王朝（今のところ伝説上）→殷（BC1,500年～1050年）→周（BC771年に滅ぶ）→春秋戦国→秦始皇帝（BC221年、巨大王朝国家）

²⁶ アイヌより北の人々は狩猟・採集民で国家を必要としていない。17～18世紀頃には、アイヌ、ヌ

ブフ、ウィルタ、ウデヘ、オロチ、ナナイ、ネギタール、カムチャダール、チュクチ、ユカギールなどの民族がいた。（平山裕人）

²⁶ 中国の王朝は圧倒的な経済力、軍事力を持っていた。世界の中心は中国、首長は皇帝である。周辺の王朝や民族を「野蛮人」と見なしていた。北→北狄（ほくてき）、南→南蛮（なんばん）、西→西戎（せいじゅう）、東→東夷（とうい）である。倭（日本）は東夷の一つだった。ヤマト王権＝古代天皇制国家をめぐっては、日本版（ミニチュア）の「中華思想」が問題となる。（平山裕人）

□日本社会においては、九州～関東が稲作農耕社会になり、弥生時代²⁸に入る。人口が爆発的に増え、「倭人²⁹のクニ」がつくられるようになる。そしてクニの間の富の奪い合いが戦争となった。

- この時期、関東以西の新石器文化の担い手であった縄文人はどうなったのだろうか。
- a. 狩猟・採取生活をやめ、農耕社会を選らんだ。
 - b. 渡来人と混血し、農耕社会を選んだ。
 - c. 農耕民とたたかったり、山岳地帯に移住し、狩猟生活を行った。

彼らは、この3パターンのいずれかを選択したと考えられている。

□それでは北海道はどういう状況だったのか。「札幌埋蔵文化センター」は、「本州では水稲耕作が始まり弥生文化となったが、北海道では稲作は広がらず、北海道の環境に適した狩猟・漁労・採集を中心とする文化に変わりました。この文化を『続縄文文化』と呼んでいます」と説明している。

蝦夷はなぜ、エミシやエゾと読むのか

ワードで「エミシ」と「エゾ」を入力すると両方とも「蝦夷」と変換される。逆に蝦夷と書いてどうして、エミシとかエゾと読む

のかである。

今回、長年の「疑問」が氷解した。それは、音としてのエミシやエゾと、漢字の表現が別々にあった³⁰からである。つまり、文献に蝦夷とあっても、その読み方は時代によって違っていたのである。

時代によって違うエゾの漢字表記は「蝦夷・毛人・俘囚・夷俘・蝦狄・東夷・夷・狄」などである。これらの漢字の読み方は、古代では、エミシ・エビス、中世～近世ではエゾへと変化する。「エビス」は戎、胡、夷が変換される。

「エゾ」は古代から幕末期まで「特定の人々」を指す言葉として生きてきた。そこには、ある観念やイメージがある。つまり、「エゾ」には蔑視・差別意識がきわめて濃厚に付着している言葉³¹なのである。

時代を追いながら、蝦夷の言葉の変化とその背景を見てみる。

□エミシは「戦闘行為をする勇猛な人々」として「日本書紀」に出てくる。「東征毛人(エミシ)五五国…」の例がある。9世紀半までエミシは武勇にすぐれた人³²を意味して使われ続けた。

□8世紀に入ると、俘囚、夷俘が新たに使用される。これは、律令国家にとりこまれたエ

²⁸ 紀元前後。縄文式土器と違う土器が東京の本郷弥生町で発見された。弥生式文化の特徴は、鉄器の使用がはじまったことと水稲農耕が始まったことにある。(榎本守恵)

²⁹ この「倭人」は九州北部から近畿にいたる西日本の人々を漠然と呼んだものである。(平山裕人)

³⁰ 「『エミシ』『エゾ』は何を指しているのか」(『アイヌの本』宝島社、児島恭子)

³¹ 「(エゾは)人々の言葉の中にある差別意識を表した言葉であり、実体を意味してはいない」(児島恭子)

³² 「蘇我^{えみし}蝦夷」「小野朝臣毛人^{えみし}」(菊池勇夫)

ミシを意味する。彼らはヤマト王権に朝貢し、律令国家の辺境支配に役割を果たしたが、「庸・調」の税を負担していない。公民は「田夷」³³といわれた。

□奈良時代にはエビスという音に転訛する。

□平安時代には、勇猛なるエミシは消え、エビスという音で「荒き夷」「奥の蝦夷」「荒えびす」など荒々しくものあわれ理解しない³⁴意味でつかわれる。

□鎌倉時代の武家は「えびす」であった。東国の武士は「えびす」を自称し、都の人びとは「あづまえびす」と呼び、軽蔑と恐れを抱いていた。「えびす」は武人という語意を引き継いでいる。

□エゾの言葉が文献上で初見（1116年）するのは和歌である。「エゾ」は「エビス」に比べ、地域的にはより北方に限定されている。

□中世のエゾは「諏訪大明神絵詞」（14世紀中に成立）に書かれた「日の本」「唐子」「渡党」の3つの集団の総体とされている。すなわちエゾの中身に実態がともなってくるのである。エゾは総体として農業を知らない、境界に追放され鬼のイメージにあり、身分

としては非人・下人と類似し、賤視される共通性がある。

□近世になると、エゾはイコールアイヌとあってよい。しかし、①すべてエゾ＝アイヌとは限らず、②アイヌを意味していても、異民族として認識されていたかが問題となる。

「蝦夷」の言葉の歴史的認識は、「ああ、そうだったんだ」の連続であった。そして「個人レベルでの差別は、いまだにアイヌをエゾとして見るから起きる差別といえる」という指摘がするどい。そして「人間集団として見るならば、それは一つの間人集団としての格のことになり…差別の質が違ふ」という指摘はアイヌ差別を考える重要な視点として確認できる。

「最上徳内³⁵や松浦武四郎³⁶は、アイヌを独自の文化を持った異民族として捉えていたといえるかも知れない」との指摘³⁷には何かしら救われる気持ちである。

オホーツク文化がアイヌ文化に残したもの

学校で学ぶ「正史」が縄文文化、弥生文化そして古墳文化へと書き進められるもとで、北海道社会では並行して擦文文化^{きつもん}そしてオホーツク文化が展開していた。この二つの

³³ （菊池勇夫）

³⁴ 王朝の貴族から見ると、エビスは民族的な違いではなく、洗練されない田舎者とする軽蔑の対象であった。（児島恭子）

³⁵ 1978年7度目の蝦夷調査で幕臣の近藤重蔵の配下として択捉島に領有宣言を意味する「大日本恵登呂府」の標柱を立てる。場所請負制を行っていた松前藩には危険人物として警戒された。（Wikipedia）

³⁶ 1869年に開拓判官となり、蝦夷地に「北海道」の名（当初は「北加伊道」）を与え、アイヌ語の地名をもとに国名・郡名を選定した。1870年、アイヌ民族への搾取を温存する開拓使を批判して職を辞し、従五位の官位も返上した。（Wikipedia）

³⁷ 児島京子

(3)「川の民」的な擦文文化に対し、オホーツク文化は「海の狩人」の文化といえる。二つの文化は異質であり、異なる文化として接触・対立したが、混血も同時に進んだと思われる。

ホーツク文化は、本州からの鉄器の移入などで経済的基盤の強かった擦文文化に吸収され12～13世紀頃に終わる。

(4) オホーツク文化のアイヌ文化への大きな遺産あるいは貢献と考えられているのが、「ユーカラ」と「クマの霊送り」の儀式である。これらは「新たな装い」のもとにアイヌ文化が形成されることになる。

「ユーカラ」は、少年英雄ポイヤウンベが活躍する民族の叙事詩である。モチーフはレペウクル（沖の人）とヤウクル（内陸の人）とのたたかいである。

クマの霊送り儀式はイヨマンテと呼ばれる。近世アイヌ文化体系のなかで、民族文化の核心とされる最も重要視されてきた文化的要素である。

なお、アイヌにとってクマは主要な食糧ではなかった。①信仰の対象として、また、②毛皮や胆嚢が交易品として重要⁴²なもの

だった。クマ猟は、残雪の冬眠中をねらって行われていた。

(5) オホーツク文化人が持っていた北海道・サハリン・大陸を結ぶ、海上交易ルートはアイヌが継承した。北方交易こそ、オホーツク文化の大いなる遺産⁴³にほかならなかった。

①13世紀、「樺太アイヌ」⁴⁴がサハリンで戦った記録が残されている。モンゴル帝国に服属するニブフ（ギリヤーク）を樺太アイヌが毎年襲い、フビライが連年、集中的かつ大規模な救援軍を送ったのである。北の地における「元寇」（蒙古襲来）⁴⁵であった。

44年間にわたるアムール川下流域とサハリンを舞台にしたたたかいで樺太アイヌは敗れたが、1308年の講和後、樺太アイヌは「北の交易者⁴⁶」と活躍することになる。

北の元寇について北条時宗は、知っていたのだろうか。興味が湧いてくる話である。

②「山丹交易」による交易品では「蝦夷錦」

がある。（菊池勇人）

⁴⁵ 鎌倉時代、元が北九州を襲ったのが「文永・弘安の役」（1274年・1281年）のいわゆる元寇である。

⁴⁶ 13世紀半ばの樺太アイヌとニブフの抗争の背景は、①擦文文化人（アイヌ）とオホーツク人の抗争の延長線上にあり、アイヌ側がオホーツク人を追い返し、さらにアイヌのサハリン進出がある、②10世紀以降、アイヌと奥羽社会（安倍→清原→藤原）との交易が一段と発展し、特産物（アザラシ皮、貂皮、鷹）がより必要となっていた。（「アイヌの本」榎森進）

⁴² 「アイヌ文化の基礎知識」なお、エゾシカは貴重な食料で、毛皮は防寒用衣服など諸道具の材料となっていた。

⁴³ 「山丹交易」アイヌの北方交易のこと。山丹とはアムール川下流の民族、「ジャンタ」が訛ったもの。（「アイヌの本」中村和之）

⁴⁴ 樺太アイヌは、元代には「骨嵬」（グウエイ）、明代には「苦夷」（クイ）「苦兀」（クウ）、清代には「庫野」（クイエ）「庫頁」（クイエ）と表記され、ギリヤークや黒竜江下流の諸民族がアイヌを呼ぶときの「クギ」ないし「クイ」に近い漢字をあてたものである。古代蝦夷はこの「クイ」に起源するとの説

47と「青玉」⁴⁸は珍重された。

松前藩は蝦夷地の支配者であることを強く印象付けるため、蝦夷錦を贈り物として政治的に利用している。蝦夷錦は、北京からアムール川を下り、間宮海峡をわたってサハリンに至り、南下して北海道に入るといって5,000キロの道のりを経ているのである。

アイヌ民族としての文化形成

(1) 北海道においても縄文文化→続縄文文化と続き、「擦文文化+オホーツク文化」の「新たな装い」のもとに8~9世紀にはアイヌ文化の形成が始まったというのが定説である。アイヌ文化は12~13世紀には完成したと考えられている。

擦文文化とオホーツク文化は「原アイヌ文化」と位置付けられ、その「原」がはずれるのは、アイヌが狩猟・採集社会を続けながらも、①石器・土器から鉄器の使用、②内耳土鍋から鉄鍋の使用、③竪穴住居から「チセ」の使用に至り、これがアイヌ文化としてのメルクマールとなっている。これらは現

47 蝦夷錦は清朝役人の絹製の官服である。確認されている「蝦夷錦」の資料は、現在30点ほどあるが、和人社に残されたものであり、アイヌ社会との関係はたどれない。（「アイヌの本」中村和之）

48 実態はよくわからない。近世のアイヌ女性の盛装のタマサイ（首飾り）には「青玉」が使われているが、産地は不明である。（中村和之）

49 炉の上につるして使用する内側に耳をもうけた土鍋。内耳鉄器を模倣している。炉のかけた鍋ですべてを煮炊きするのは、近世アイヌの生活様式である。（宮島利光）

50 チャシは山の頂など、「区切られた聖なる空間」を意味していたが、アイヌ間の勢力争い、「和人」との緊張の高まりから砦化していった。根室、釧路、十勝と日高などに526遺跡（1990年現在）が16~18世紀のものと年代比定されている。（菊池勇夫）

代人が思い描いているアイヌ文化と重なっている。

(2) アイヌ文化は、オホーツク文化を吸収した擦文文化を土台としている。アイヌ文化の「新たな装い」として、考古学的には、①内耳土器⁴⁹、②チャシ⁵⁰、③送り場、④回転式銚先、⑤陶磁器類、⑥墓と副葬品が注目されている。

(3) 以下、アイヌ文化の内実に接近する。

①火の神（アペフチカムイ）は人間にもっとも親しみやすく、身近な神だった。チセの中央部には炉が切られていて、火の神を中心に日常生活が営まれた。何事も炉を囲んで神への祈り（カムイノミ）から始められた。

②イヨマンテ（クマの霊送り）⁵¹は、アイムモシリを訪れたクマやシマフクロウを一定期間コタン（集落）で飼育したのち、神の世界（カムイモシリ）へ送り出す儀式⁵²である。

なお、チャシはサハリンにも存在する。

51 イヨマンテは「熊の霊送り」と儀礼のための料理（「アイヌの本」でリアルに紹介されている。儀礼は、3日間にわたって行われる。すべては「神への祈り」から始まる神事である。この時、歌と踊りとともにユーカラが語られるが、「熊が続きを聞きたいために、再度人間世界に遊ぶに来てもらう」ために、必ず語りを途中で止めるのだという。

「食」に関しては、「粟や稗、米などで作る酒」（トノイ）、「米やイナキビなどの粉で作った団子」（シト）や解体された熊肉は参加者に分けられ、土産として持ち帰られる。料理の素材やメニューは、家や地方によりさまざまに違いがあるが、味付けは、塩味ですべてシンプルだという。

52 クマ送りは、北方ユーラシアから北アメリカに広く分布するが、「子クマ飼育型クマ送り」は、ナ

おそらく 18 世紀以降⁵³に確立された儀礼とされる。この基盤は次の諸点がある。

- a. アマツポ（仕掛け弓）とスルク（とりかぶとの毒）を用いた毒矢の高度な技術が存在し、クマ狩りはアイヌの共同生産であったこと。
- b. クマ皮は交換価値が高かったこと。アイヌ側が入手したのは、小刀・鍋・斧・針に鉄製品、膳・椀などの漆器類、衣類、米、煙草などである。
- c. マキリ（小刀）は、アイヌ文化にとつとくに重要で木彫りや木製民具の発達を促した。

③アイヌは一つの川にそった複数のコタンを形成した。父方の系譜を示す、エカシトクバ（祖印）が、イナウに刻みつけられて伝えられている。アイヌ社会は父系血縁集団である。

アイヌの食料は、サケとシカが双璧である。サケはカムイチェブ（神の魚）またはシペ（まことの食べ物）だった。すなわち、サケの産卵場を中心に河川流域共同体として定住集落群が形成された。こうして見ると、アイヌ文化とは、「サケ漁による定住的集落」、「交易品クマ皮、胆嚢の外需」、「鉄器と諸物資の流通」、「イヨマンテの精神文化」が有機的に結合されたものと確認できる。

ナイ、ウリチ、オロチ、ニブフなどはアムール川下流域とサハリンの狩猟民にのみ限られる。（平川裕人）

⁵³（菊池勇夫）

⁵⁴「大化の改新」は隋に派遣されていた留学生や僧が政策的なイニシアティブを発揮した。

①豪族の田荘などの私有地や私民を公収し、田地や民は全て天皇のものとする。（高地公民制）

2. アイヌモシリへの和人の進出とアイヌ民族の抵抗

大きく3つに分けて整理している。

【第一】は、和人進出の前史としての「ヤマト王権の蝦夷への侵攻」と「和人の蝦夷島への“移住”」についてである。

【第二】は、アイヌと和人の交易のあり方の変遷である。和人に収奪されるアイヌ社会の変容を3期にわけて特徴づけている。

- (1) 往来交易制
- (2) 商場知行制
- (3) 場所請負制

【第三】は、「アイヌの大闘争時代」についてである。アイヌ民族の「シャモ」と松前藩の収奪・支配に対する抵抗とたたかいを深掘りしている。

ヤマト王権の蝦夷への進出

ヤマト王権の蝦夷への進出は前史である。大化の改新（645年）は、隋の律令制を模範とする天皇家中心の新しい政権をめざした古代の政変である。改新の「詔」では新政策⁵⁴が打ち出され、それを蝦夷への進出が

②戸籍と計帳を造り、公地を公民に貸し出す。（班田收受の法）

③国や郡（こおり）、県（あがた）などを整理して、令制国と付随する郡に整備しなおす。（国郡制度）

④公民に税や労役を負担させる制度改革。を行う（租・庸・調）

始まる起点としている。なお、畿内を中心とする天皇家を中心とする政権をヤマト王権と呼びながら論を進めている。

□ヤマト王権は、大化の改新後、ただちに淳^た足^り（647年、新潟市）、磐^い舟^{ふね}（648年、村上^{むら}市）に砦を造った。ヤマト王権は北上の結果アイヌ語圏に至るのである。

□大宝律令（710年）により、天皇を頂点に官僚国家が完成する。「百万町歩開墾計画」（722年）を打ち出し、東北地方の太平洋側に侵攻する。エミシの反撃はゲリラ戦としてとめどなく続くことになる。

□桓武天皇（789年）は50,000余の兵で胆沢エミシを攻略し、勢力を一気に北上⁵⁵させる。胆沢^い一^ま体（現水沢市）の統率者だった「アテルイ」⁵⁶（阿弭流爲）は長期の戦いのすえ、敗北し、京都で斬首された。

東北の人々にとって戦いは、侵略に対する抵抗であった。

□8世紀、人びとは「俘囚」^{ふじゆう}「夷俘」^{いふ}と呼ばれる。蝦夷^{エミシ}にはヤマト王権との関係で区別があった。

a. 帰化・服属の過程にある「俘囚」「夷俘」
b. 朝貢関係はあるが、国家の支配の範囲外の「化外の民」の区別である。

狩猟生活を行うエミシは「山夷」、稲作耕

作のエミシは「田夷」である。

□古代天皇制国家と抗争した安倍・清原・藤原の各氏は俘囚の系譜を受け継ぎながら、官僚国家の地方行政機構に食い入り、勢力を拡大していく。

いち早く商人が移住。そして追放・亡命者が

□平泉藤原3代の滅亡の後、奥州は鎌倉幕府の支配地となり、俘囚社会的な装いは拭いさられた。幕府は、津軽の豪族安藤氏を「蝦夷管領」に命じた。

十三^と湊^{きみなと}は蝦夷島と北陸若狭を結ぶ日本海開運の拠点となった。この時、すでに商人の移住が起きていたと考えられている。

□鎌倉幕府により、蝦夷管理システムが再編され、蝦夷島は新たに流人の島⁵⁷として位置づけられ、強盗や山賊が流された。和人「移住」が文献に最初に表れるのは「吾妻鏡」（1235年）である。

□安藤氏の内紛に敗れた、武士団が「蝦夷島」に「亡命」するようになる。すでに「道南12館」では安藤一族や家臣が地域の豪族となっていたのである。

□13世紀、境界領域・異国としての蝦夷島

（1235年）は、「和人」の「蝦夷島」への移住記録の最初である。犯罪人が国家領域外に追放されたのは、罪=穢れ（けがれ）と考えられたからである。中世における日本の境界は、東は外ヶ浜または蝦夷島、西は鬼界島（硫黄島）または対馬・高麗、北は佐渡、南は土佐と観念されることが多かった。（菊池勇人）

⁵⁵ 坂上田村麻呂は、802年胆沢城（岩手県）を築き、鎮守府を多賀城（宮城県）から移した。（平山裕人）

⁵⁶ アテルイの名はモレとともに、NHKの大河ドラマ「焰立^{ほむら}つ」で知った人が多い。

⁵⁷ 「吾妻鏡」の「夜盗・強盗を流した」との記述

には「日の本」「唐子」⁵⁸「渡党」が住んでいた。渡党は、函館、松前を拠点に津軽海峡を超えて交易・交流していた。トリカブトを用いた毒矢の使用は、アイヌが含まれていることを示す。渡党には国家の秩序外の倭寇的だの指摘⁵⁹もある。

□「日の本将軍」といわれた安藤氏は15世紀初め、南部氏の圧迫により、蝦夷島に逃走する。

□和人の移住は15世紀中頃には、勇払（苫小牧）、余市あたりまで広がっていた。津軽からのニシン漁に季節的に「出稼ぎ」があった。（榎本守恵）

【第二】は、アイヌと和人の交易のあり方の変遷である。3期にわけてアイヌ社会の変容を特徴づけている。

アイヌ社会の生産活動は、そもそも自分たちの生活の糧であったが、往来交易から商場知行制、そして場所請負制のもとで大きく変容する。その経済的特質がキーポイントである。

往来交易の時代

⁵⁸ 「諏訪大明神絵詞」（1356年成立）「日の本」は北海道東部の太平洋側の住民。千島列島とのつながり。「唐子」は西部の日本海側の住民。サハリン・沿海州とのつながり。住民は「形態夜叉の如く変化無窮」で禽獣魚肉を食べ、五穀の農耕を知らず、言葉が通じないとされている。（菊池勇人）

⁵⁹ （菊池勇人）

⁶⁰ 「夷狄の商船往還の法度」（1551年）の協定は①自由貿易を求めるアイヌ側の不満を「蝦夷役」で吸収し、②徴税権をたてに本州商船への統制を強め、③館主層の交易権を制限するものであつ

□往来交易は鎌倉幕府の蝦夷管領による統治から14世紀初めのアイヌと道南12館の小豪族との戦い、そして「通商協定」⁶⁰まで、およそ100年を期間としている。

□奥州藤原氏の滅亡により、俘囚的社会が一掃され、蝦夷問題は所を変え、東北北部から北海道が対象となっていく。14世紀初めには「渡党」⁶¹が函館、松前を拠点に津軽海峡をはさんで交易をしている。

□「蝦夷管領」として安藤氏が十三湊を拠点に蝦夷を統括していたが、1422年南部氏に敗れ、蝦夷地に敗走する。これら敗走者が「館」を構え、15世紀半ばには「12館」の小土豪として存在する。彼らは「武士であり、商人」であった。

他方、アイヌの側にも交易を通して首長層が生まれていた。15世紀末までにすでに交易かなり高度な流通体系が生まれていた⁶²のである。

□往来交易は、「ウイマム」と「オムシャ」の二つ形態で行われていた。「ウイマム」はアイヌの首長が単独又は複数で産物を船に積み込み、商場に出向く交易であり、商場は

た。（菊池勇夫）

⁶¹ 渡党は「藤原氏の滅亡によって逃げ渡った人」「流された強盗・海族」「日本海交易ルートで渡ってきた武装した海商・海民」など倭寇的集団に擬されている。（菊池勇夫）

⁶² 「宇賀昆布」や砂鉄生産を背景に、十三湊を媒介に若狭への「定期船」を往来していたのである。志苔館付近から50万枚の古銭（85%が宋銭）が発見。（「資料と語る北海道の歴史」海保嶺夫、北海道出版企画センター）

後には全道の沿岸に設けられている。「オムシヤ」は、商人がコタンを訪ねる形態である。往来交易の「往来」とは文字とおり、「行ったり、来り」の意味である。交易は商場（又は場所）における物々交換であり、いわばアイヌと商人の「win・win」の取引が原則である。

商場知行制の時代

□松前藩の成立後、その交易形態は「商場知行」制へと変化する。原因はもっぱら和人の側に起因したものである。すなわち 1593 年の豊臣秀吉の朱印状⁶³に続き、1604 年、徳川家康が松前慶広に黒印状を与えことによる。黒印状は 3 ヶ条だが、「松前氏の許可なく、松前・蝦夷島でアイヌとの交易ができない」⁶⁴ことが重要である。これにより幕藩体制における松前藩⁶⁵の誕生した。

松前藩は、アイヌの勢力が圧倒的に強いもとの、江戸幕府がアイヌモシリを統治する橋頭堡でもあった。

他方、松前氏への「窓口一本化」は、アイヌにとっては、「まったくあずかり知らない」ものであり、とても納得できるものではなかった。

□大名は、領地の農業生産をもとに「何万石の大名」と呼ばれていた。石高のない松前藩⁶⁶は、藩の財政確保や家臣に対する知行・俸禄を特殊な形態をとることになる。

蝦夷交易の権利を独占する松前藩は商業を藩制の基礎とした。アイヌの生産物との商売の権利は、松前藩の許可がなければできない。そこで松前藩は、アイヌ交易（物々交換、和人同士は貨幣を使用）する場所、すなわち商場をいくつも設けた。アイヌの集まりやすい、藩の船が生きやすい場所である。そしてこの商場を上級武士に知行として与えたのである。

藩主や上級武士は、①春に松前に来る商人からアイヌに必要なものを買入れる。②船に積んで商場に出かけ、アイヌの生産物と交換する。③アイヌの産物を諸国の商人に売る。④その収益で米や生活必需品を購入するサイクルである。

なお、下級武士は「扶持米とり」であることにかわりがなかった。

□松前藩の財政はその統治の期間を通じ、次のように賄われていた。

(1)「蝦夷」交易－アイヌ産物との交易。交

⁶³ 蛎崎氏改め、松前慶広が秀吉から「狄の島主」の朱印状を与えられ、松前氏を安東氏の代官ではなく、独立した大名として認めたものである。アイヌとの交易への課税を既得権として認めた。

⁶⁴ 黒印状より大きな権限が与えられ、蝦夷交易、蝦夷地への渡海はすべて松前氏の許可を得なければならぬ。本州へ帰る交易船も松前で「改め」を受け、直航は許されなかった。

⁶⁵ 松前藩主系図 「^(新橋)武田信広—^(松前)光広—^(松前)義弘—^(松前)季広—^(松前)松前慶広—……15代」、初代信広は相続争いに敗れ、若狭から蝦夷が島に渡り、花沢館の「客」と

なる。コマシャイン父子を弓で射殺し、名声をあげ、蛎崎氏の婿となる。百年余の繰り返される戦いの中で、蛎崎氏が道南和人の中心となり、光広の時、徳山館（福山→松前）築く。季広は「通商協定」を締結。慶広は安藤氏からの独立準備をすすめ、秀吉の朱印状をえる。松前氏改姓は黒印状の 5 年前である。（榎本守恵）

⁶⁶ 「蝦夷島主」の松前氏は、大名でも旗本でもない特別待遇だった。8 代将軍吉宗の時に「万石以上」の例外大名となり、幕末には奥羽に領地をもつ 3 万石大名となった。松前崇広は老中になっている。（榎本守恵）

易商人はニシン、昆布、干鮭、干アワビ、毛皮類、蝦夷錦、樺太玉を京阪に運び、上方からは衣類、食料、生活調度品、北陸・東北地方からは米、ミソ、ナワ、ムシロ、漆器などを松前に持ってきた。

ニシン魚の時は、武士も寺の坊さんも、奥方様もみんな浜に出て漁を手伝った。

豊富な漁業資源（鮭・鯿など）の商品化＝
 粕（肥料）は、畿内の商業的農業の発達の一
 いちじるしい地域に定着した。

蝦夷地は、経済的に幕藩的な再生産構造
 に編成されて行ったのである。

(2) 沖口諸役－沖を通過する商船への課税
 である。いわば「税関」と言える。

(3) 松前地内に住む和人（ほとんどが漁民）
 への課税。商人、職人もいた。

(4) 砂金堀り人への課税。（シャクシャイ
 ンの蜂起頃まで続く。大阪夏の陣の時期に
 は5～8万人が入り込んでいる。榎本守恵）

(5) 鷹は松前藩独特の財源である。幕府献
 上の「鷹の大名行列」が毎年行われた。蝦夷
 全島に鷹をとらえる鷹打場が390カ所あっ
 た。鷹打ちは江戸中期に衰える。

(6) 木材の特産。ヒノキに似た「翌檜」が
 伐採され、後に悪名をはせる飛騨屋久兵衛
 は日高、釧路、天塩から木材を江戸⁶⁷や大阪
 に運び、大儲けしている。なお、アスナロと
 はエゾ松のことである。（2～6は榎本守恵
 による）

場所請負制の時代

□17世紀初め、商場は場所請負制へと転換
⁶⁸される。背景には従来の収入方式がすでに
 限界にあり、また幕府のテコ入れもあった。

松前藩の存立基盤は、アイヌとの交易品
 の京阪への移出で成り立っていた。「北前船」
 の安定的な大量輸送が商場知行制を成り立
 たせていたのである。

場所請負制とは、知行主（藩主・家臣）が
 行っていた交易を、その道のプロである商
 人に委託し、運上金（請負代金）を納めさせ
 る制度⁶⁹である。

交易権が企業的商人に移され、商人はさ
 らに漁業権を得て大規模な直接生産にのり
 だすことになる。場所請負制は、近江商人を
 中心とする関西系商業資本の蝦夷島への進
 出に道を開いた。

□17世紀以降、流通は近江商人が担い、松
 前城下は近江商人の出張所⁷⁰の様相を呈し

⁶⁷ 新興都市江戸には多くの木材需要が生まれていた。

⁶⁸ (海保嶺夫)

松前藩は、場所請負制の導入にあたり、懐柔策をとった。すなわち、運上屋に通辞、帳役（会計）とともに番人（漁場の番屋を管理し、直接アイヌの使役にあたる者）を置き、乙名（おとな）・脇乙名・小使（こづかい）・土産取（みやげとり）の役職を押し付けた。彼らは、運上屋に詰め、定められた役料を受けていた。（菊池勇人）

⁶⁹ 松前藩の財政は困窮し、1720年には、わずか1000両だった蓄財が1743年には1万両となる。商場が「運上場所」と変わり、単なる「場所」に変化した。場所請負制の根拠である。請負は「證文」を交換し、初期は3カ年契約で、商人は年2回契約金を支払った。松前藩士は完全にサラリーマン化した。（菊池勇夫）

⁷⁰ 18世紀半ばには30店。（宮島利光）

ていた。なお、箱館、江差⁷¹にも出店がつくられている。こうして「蝦夷地－若狭湾諸港－琵琶湖－近畿市場」という流通体系・運搬手段の大きな変化⁷²があったのである

□場所請負制は、アイヌ社会の徹底的な解体をもたらすことになる。

アイヌは交易相手の生産者ではなく、労働力として位置づけられ、漁業労働者へと転化する。山間部のコタンから、漁場に強制連行が行われ、男女を問わず、軒並み「雇」⁷³にとられた。およそ働けるとみられる人々は連行された。

アイヌ共同体は解体されるのである。榎本守恵は「アイヌは半奴隷的な運命」におちいったとしている。

場所請負人によるアイヌの使役は、単なる賃金問題にとどまらず、異なった民族間の価値観・労働観の相異による対立をあらたに生み出している。すなわち商場では交易における不公正な取引⁷⁴が問題だったが、場所請負ではアイヌの労働力の「搾取」の問題であった。矛盾の次元が異なり、深化するのである。

アイヌには、そもそも自分たちの生活の糧でよかったが、場所請負人は、利益を上げるために大量生産の刺し網を持ち込み、塩鮭や荒巻の新たな製造方法も持ち込んだ。すさまじい乱獲が行われたのである。

□豊富な漁業資源（鮭・ニシン）の商品化と粕（肥料）は畿内の商業的農業の発達のいちじるしい地域に定着する。蝦夷地は、経済的に幕藩的な再生産構造に編成されて行ったといえる。

場所請負制は、商業的資本によるアイヌの労働者化そのものであったのである。

□場所請負制は、蝦夷地が幕府の直轄領に上地され、^{じかさばき}直搦となっても維持されている。

明治維新の1869年、開拓使が場所請負制の廃止を布告したが、それはアイヌ民族の「解放」にはつながらなかった。すでに乱獲により河川の生態系が破壊され、さらにアイヌの経済的自立手段も奪われていたからである。

他方、旧請負人の一部は、拝借地が認められ、その後私有地として確定し、近代的な漁業経営者に転換をとげることになる。やがて、三井物産など近代的商業資本による海産物への進出がつよまっていく。⁷⁵

【第三】は「アイヌ大闘争時代」と題するアイヌ民族の和人の支配に対する蜂起・抵抗のたたかひのまとめである。

表題の命名は、「アイヌ文化の基礎知識」による。年表では、蜂起や抵抗の背景や原因をアイヌと和人の経済的な関係、すなわち交易形態に着目するくくりとしている。

⁷¹ 「江差の春は江戸にもない」（榎本守恵）

⁷² 西回り航路は松前城下－日本海－下関－瀬戸内海－大阪のルートである。船も北前船（弁財船）と大型化した。

⁷³ 松浦武四郎の「戊午日誌」（1858年）

⁷⁴ 蝦夷交易には「アイヌかんじょう」「メノコかんじょう」があった。10本のサケを受け取る和人が「はじめ」と「おしまい」を加え、12本とするのである。和人は数のゴマカシでも儲けていた。（榎本守恵）

⁷⁵ （宮島利光）注101も参照。

「アイヌ大闘争時代」の蜂起・抵抗のたたかい

西暦	交易の形態	蜂起、抵抗のたたかい
1192	(約100年間) 往来交易の時代	源頼朝征夷大將軍
1456		蝦夷蜂起
1457		東部酋長（コマシャイン）蜂起
1469		蝦夷蜂起
1473		蝦夷蜂起
1512		蝦夷蜂起
1513		蛸崎光広、大館を攻める
1515		東部酋長（ショヤ・ショヤコウジ）蜂起
1525		東西蝦夷の蜂起
1528		蝦夷蜂起
1531		西部酋長タナタカシの蜂起、セタナ来寇
1536		西部酋長（タリコナ）の蜂起
1551		初めて東西の蝦夷尹を定める。(以後、東西地とも平安となる)。
1604		(約65年間) 商場知行制の時代
1643	西部酋長（ナウケ）の蜂起	
1648	東部蝦夷間の抗争	
1651	東部メナシクルとコツクルの抗争	
1653	東部メシナの蝦夷蜂起	
1655	シャクシャインとオニビシの和解	
1662	東部の蝦夷騒乱	
1665	東部の蝦夷和解（下国安季のあっせん）	
1669	シャクシャインの蜂起。謀殺	
1670	(約120年間) 場所請負制の時代	西部与伊地（よいち）の蝦夷を征す
1671		東部之良遠伊（しらおい）の蝦夷を征す
1672		東部久武奴伊（くんぬい）の蝦夷を征す
1758		ノシャップの蝦夷とソウヤの蝦夷との抗争
1770		十勝の蝦夷と沙流の蝦夷の抗争
1798		クナシリ・メシナの蝦夷の蜂起
1799	直捌	幕府が蝦夷を直轄領とする
		「源頼朝」「黒印状」「直捌（じきさばぎ）」の部分は「アイヌ文化の基礎知識」に加筆した。。

〔往来交易制の時代のたたかい〕

□鎌倉幕府の奥州鎮定後、東北には津軽に安東氏、八戸に南部氏が勢力を有していたが、一族の内紛により、敗れた側が蝦夷地に亡命する。すでに一族や家臣が移住しており、受け入れの基盤があったのである。

当時、渡島から上ノ国にかけて12の館^{たて}⁷⁶が存在した。館は城のような屋敷である。



である。

松前藩の記録に「蝦夷蜂起」が最初に表れるのは1456年の蜂起である。マキリの品質と値段をめぐり、少年が箱館の鍛冶屋にさし殺された事件が発端となり、アイヌの中に膨らんでいた不満が一挙に爆発した。

アイヌの決起は、鶴川、余市あたりまで広がり多くの和人が殺されている。

翌年、アイヌの勢力はますます強くなり、コマシャインに率いられたアイヌ軍は12y 3 h h館を攻め、かろうじて2館が持ちこたえ、和人全滅の危機が迫っていたのであ

る。

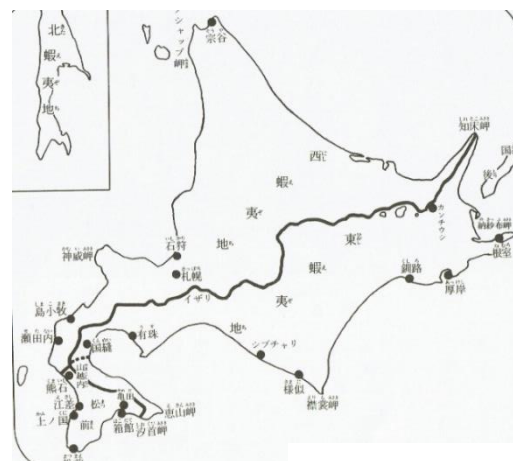
□和人は武田信広を総大将に決戦にいどみ、信広は逃げるふりをしながら、追撃してきたアイヌ軍の機を見て物陰からコマシャイン親子を射殺した。

和人は危く難を逃れ、名声を上げた武田信広は、蛎崎家の婿となり、他方、諸館主は勢力争いやアイヌ軍に攻められて滅亡し、ひとり武田信弘が道南和人の中心となっていく。

蛎崎氏が松前を名乗るのは、信広から数えて5代目、慶広が家康から黒印状を受けられる1604年、関ヶ原たたかいの後である。

□松前慶広は、福山（現在の松前）に館を築き、アイヌに対しては城、幕府にたいしては館としていた。

福山城を中心に東は箱館付近まで、西は熊石までを松前地と呼び、それより奥地を東蝦夷地、西を西蝦夷地と区別した。⁷⁷ なお、和人の居住地は松前地だけに限られていた。



⁷⁶ 地図は「北海道の歴史」（榎本守恵）

⁷⁷ 亀田と熊石に取締りの番所がおかれた。和人地は幕末には山越まで広がった。（榎本守恵）

〔商場知行制の時代のたたかい〕

□「石高」のない松前藩は藩の財政や、家臣に対する知行・俸禄を藩が設けた商場でアイヌと交易する権利として与えたことは前述した。

商場の制度化は「交易するアイヌ」から「交易されるアイヌ」への大きな流れの変化でもあった。商場は、松前藩の勢力の広がりとともにしだいに奥地に増えていった。

□ショヤ・コウジ兄弟のたたかい (1515 年) の結果、「渡党」の居住地は、「松前半島の西半分」(松前と天河を結ぶ線)に縮小する。これ以降、アイヌと和人の混在状況⁷⁸が否定され、両者の住む場所の区別がつよまることになる。

西部の首長、「タナサカシ」は、瀬田内で「館主」を破り、上ノ国を攻撃する。(1531 年)「タリコナ」は、騙し討ちにされる。以後、騙し討ち⁷⁹は松前藩の基本的戦術となった。(1536 年)

□^{かきぎま}蛸崎 (季広) 氏は、アイヌとの武力闘争を

やめ、妥協策に転じた。1550 年、セタナイ (瀬棚) とシリウチ (知内) の首長に欲しが
る宝物を多く与え、講和し、「通商協定」を結ぶ。

蛸崎氏はハシタイン (瀬棚) を上ノ国の天河に住まわせて「西夷」の「尹」^{おき}(長の意味)、チコモタイン (知内) を「東夷」の「尹」^{おき}に任じた。

「夷役」とは、松前に渡海した商船から徴収する税の一部を「尹」^{おき}に分配する「アメの政策」⁸⁰であった。「通商協定」後、東西地とも「平安」になったとある。

□商場知行制のもとでアイヌ首長層が、「館主」に執拗に戦いを挑んだ大きな理由は、本州方面との直接の通商を意図していた⁸¹からである。

□シャクシャインの蜂起 (1669 年) の背景は、商場知行制の拡大のもとで、和人の横暴⁸²が、アイヌの忍耐をギリギリのところまで追い込んでいたことがある。すでに 1643 年には西蝦夷地のヘナウケが蜂起している。

シャクシャインの蜂起は、アイヌ民族内

接交易を求めていた。(菊池勇夫)

⁷⁸ 渡党の当時の居住地は、余市・ムカワに及んでいた。(榎本守恵)

⁷⁹ 少数派の和人は「講和」のたびに酒宴を利用し、アイヌを皆殺しにするなど、「謀略」でともかく優位にたって行った。こうした中で、蛸崎氏が松前を中心に勢力を固め、松前氏として覇権を確立する。(海保嶺夫)

⁸⁰ 知内沖、上ノ国沖を通る商船は、両首領に敬意を示し、帆を下して一礼した。こうした態度により、蛸崎季広はアイヌから「カムイトクイ」と呼ばれた。

⁸¹ コマシャインや「東部」首長は、昆布や砂鉄の生産地を勢力圏とし、志苔、箱館を押さえていた。山丹交易ルートにあった瀬田内のタナサカシは、日本海海運の道南への窓口を支配し、若狭商人と直

⁸² 松前藩家老が「米 2 斗入り 1 俵 (約 30 キロ) = 干鮭 100 本の慣わしを、米 1 俵 (7~8 升減らし) = 干鮭 100 本」とした。

岩内では、大網で川のサケを根こそぎとり、アイヌの冬の食料がなくなり、抗議したが聞き入れなかった。

アワビの串貝が一束不足すると、翌年は 20 束とられ、足りなければ子どもを人質にとられる。松前藩に訴え出た余市の長は、半殺しにされて追い返される。(津軽藩の隠密報告から「榎本守恵」)

蜂起後の若干の改善。(生鮭 100 本 = 米 7 升) → (生鮭 100 本 = 1 斗 2 升) (海保嶺夫)

部の「イオル争い」が発端にあったが、蜂起の真因は交易価格にあった

□ たたかいはいはアイヌ民族対松前藩（＝和人）という民族の興亡⁸³をかけた戦争に発展する。

シャクシャインの呼びかけには、白糖、増毛までのアイヌがいっせいに立ち上がった。交易商船の船頭・水主・鷹匠・鷹待あるいは金堀が殺害⁸⁴され、死亡者は 355 名とも記録されている。

アイヌ蜂起の知らせで松前地の和人は慌てふためき、逃げようとしたが、松前藩は脱出を禁止した。

□ 蝦夷決起の報告を受けた幕府は「幕府に対する謀反」と判断し、「蝦夷征伐」を発令⁸⁵する。たたかいは、現在の国縫^{くんにゅう}で松前軍（900 名余）とアイヌ遠征軍（2000 名）⁸⁶で開始される。だが、毒矢と鉄砲の戦いでは勝負にならず、アイヌ軍は指揮官クラスを失い、敗北する。

アイヌ軍は、シブチャリ（静内）の前線基地に後退し、ゲリラ戦で形成を逆転しよう

とするが、松前藩は「アイヌの滅亡を避けたいなら和睦に応ぜよ」と説得⁸⁷する。

シャクシャインは和睦の酒宴の場で討たれ、同時に 55 人が殺害⁸⁸または捕縛された。

□ シャクシャインの蜂起について榎本守恵は、「交易にみられる和人のごまかしや差別、アイヌ民族の大集団化と不満を何と解決しようとした。鉄砲と毒矢の差は、敗れる運命のもとで立ちあがらざるを得なかったところに、悲劇的英雄だったわけがある」（写真は静内町真歌のシャクシャイン顕彰像）と指摘している。



徳川家康が、松前藩に与えたアイヌ交易独占権が、半世紀を経てアイヌを一斉蜂起

⁸³ アイヌ集団は、5～6つの勢力圏があった。なお、和人である「近江商人の金太夫」「鷹待の庄太夫」「金堀の文四郎」などが、それぞれの勢力の相談役（参謀）となっていたとの指摘がある。（榎本守恵）
勢力間に「一貫して漁獵圏拡大をめぐる対立が存在し、松前藩は一方と結びついて影響力拡大」をはっていた。シャクシャイン側には、かなり明確な政治的展望と軍事力結集がはかられており、このたたかいは突発的・一揆的とはいえない性格がある。（海保嶺夫）

⁸⁴ 鷹待や金堀が襲われたことは、彼らがイオルに入り込み、山や川の生態系を荒し、反発を買っていたことを示す。（海保嶺夫）

⁸⁵ 津軽藩が出兵し、鉄砲、弾薬が貸し出され、南

部藩は待機する。幕府にとっては、島原の乱以後の大がかりな出兵だった。その後、奥羽各大名は、北にむけての軍役総動員体系に組み込まれ、蝦夷地防備の出兵を余儀なくされることになる。（海保嶺夫）

⁸⁶ 双方の兵力数は、「宮島利光」による。

⁸⁷ 戦上手のシャクシャインはが講和に応じたのは条件が、「シャクシャインを従来通り、日高から十勝の長と承認する」内容だったが、だまし討ちであった。（海保嶺夫）

⁸⁸ アイヌ軍参謀の鷹待ち庄太夫は火あぶり、3人の和人は打ち首となった。（榎本守恵）

させるまでに追い込んでいたのである。

〔場所請負制の時代のたたかい〕

■松前藩は、シャクシャインの謀殺後、東・西蝦夷地のアイヌに「ツクナイ」を要求し、降伏を迫った。「ツクナイ」（償い）は、「非を認めた方が行う謝罪・賠償」の意味で宝物の刀剣類を相手方に渡すアイヌ社会の慣行である。

松前藩は、「牛玉」（神社の発行した護符）を飲ませて神に誓わせる起請文形式をとった。これはアイヌ民族に対し、松前藩への絶対服従を強いるものであった。

□クナシリ（国後）・メシナ（目梨）の蜂起

は、シャクシャインの蜂起から 120 年後の元禄の頃、飛騨屋⁸⁹のアイヌに対する虐待が原因で起きた。

飛騨屋は松前藩に運上金を先にとられ、さらに御用金を命じられていた。✕粕製造でアイヌを半奴隷的な低賃金で酷使し、経営困難を打開しようとしたのである。

蜂起は、和人 72 人の殺害が記録されているが、アイヌが松前藩と直接一戦を交えることはなかった。アイヌの首長らの説得で、降伏を余儀なくされ、ノッカマップの長老 7 名の処刑で終息した。

クナシリの豪勇で聞こえたツキノエも交易中止の制裁を受けており、屈辱的な和平でも仲間を説得したのである。

アイヌは、和人との交易なしには、もはや生活できなくなっていたのであり、ただた

だ忍従を強いられるのである。

三. ロシアの南下と幕府の北方政策のもとでのアイヌ民族

クナシリ・メシナの蜂起（1789 年）後、明治維新までの 70 年間、アイヌモシリは松前藩の支配領域から幕府直轄へ、再び松前藩への復領から再直轄へとゆれ動いた。

ここでは「開国」に至るロシアの南下圧力による幕府のアイヌへの政策転換を中心に整理している。

「年表」ではロシアの「外圧」をたどっている。ラックスマンが幸太夫を伴い根室に來航したのは実にペリー來航の 61 年前だったのである。「開国はペリーから」という認識は不十分なのである。加えて「島を返せ」の意味を考えさせられている。

ロシアの南下と幕府の直轄領化

□16 世紀末にシベリア進出を開始したロシアは、百年後にはオホーツク海に達している。カムチャッカを征服し、千島列島を南下し始め、アイヌ民族と対峙することになる。

ロシアは占守島を占拠し、毛皮税の強制した。(1669 年) 松前藩に通商を要求するようになる。(1776 年)

当時、アイヌはエトロフから厚岸におよぶ地帯に一つの勢力圏をつくりあげていた。松前藩はすでに 1654 年にはクナシリに場所を開設している。アイヌは日・ロの接境下

⁸⁹ 飛騨屋の松前藩への貸付は 8193 両に及び、抵当の形で絵鞆、厚岸、霧多布、国後、宗谷の 5 場所を請負、刺し網、引網、定置網で大量漁獲を始めた。

奴隷労働のもとで餓死者が続出した。(榎本守恵)

で流通路を押さえ、重要な位置⁹⁰を占めていたのである。

□幕府は、東西蝦夷地を調査し、①松前藩の防備ではまったく役立たないこと、②アイヌに対する奴隷的な使役がクナシリ・メシナの蜂起を招いたと認識し、蝦夷地を確保できるかどうかのカギは、唯一の現地住民であるアイヌの動向にかかっていることを認識することになる。

□1804年のレザノフの来航は、通商要求であった。半世紀後、1853年のプーチーチンの来航は、国境画定であった。この時、幕府は「蝦夷詞」、すなわちアイヌ語圏は「我國の領」と主張している。

幕府はアイヌ民族がロシアと結ぶのでないかと懸念し、「松前藩に任せておくことはできない」と判断したのである。こうしたもとの、幕府は東蝦夷地を永久上知し、本格的な経営に着手することになる。

以後、日・ロ接触の主舞台は、寛政期は千島が、そして安政期以降は、樺太の攻防が中心となる。

□幕府の直轄領化は、アイヌモシリは「日本の領土」と主張するため、「アイヌは日本人である」とする”実績”づくりであった。

松前奉行を置き、「交易の不正を正そう」「アイヌ風俗の日本化」を進めたが効果は上がらなかった。幕府は蝦夷島の再直轄後、

アイヌへの「日本語の取得」「困窮アイヌへの援助」を行ったが、徹底しないまま維新を迎えることになる。

これら一連の対応は、幕府のアイヌ政策⁹¹の大転換であった。すなわち、蝦夷地は国家の基本としては「国の外」であったが、実質的には「国の内」、すなわち内国植民地であった。

幕府の蝦夷地への経営政策

幕府は、アイヌ同化策として、①「蝦夷3官寺」⁹²をつくり、②日本語使用の奨励と風俗改め、③肉食は「野蛮」と禁じ、「穀物は文明」とした。さらに④「役土人」に対する、袷、羽織の着用、⑤名前を日本語式に改めさせた。月代を剃るなど、「帰俗」強制に対するアイヌの怒りは強かった。

アイヌに対して、「人別帳」による管理が行われ、アイヌの呼び方が「蝦夷」から「土人」へと変えられた。

以下、具体的に見てみる。

(1) 場所請負人による場所を否定し「直捌」^{じきさばき}を行った。近江商人を排し、江戸系商人を進出させ、江戸に「会所」を設け、西国への販売を行い、漁粕を関東の農村に導入する。商品生産の利潤を己のものとしようする意図があった。

⁹⁰ ツキノイなどの首長。ツキノイの動向は、日・ロ接境下でいちじるしく重要であった。日露の共通語はアイヌ語であった。(海保嶺夫)

⁹¹ 江戸幕府の学者、林子平の「三国通覧図」は青森から九州を赤、沖縄は色が別で「琉球国」と書き、松前藩の部分だけが少し赤く、それ以外の北海道、千島、樺太は「蝦夷国」として別な色にしている。根

室の「北方資料館」にある。(野村義一証言。「アイヌの本」1993年)

⁹² 有珠の善光寺、様似に等澍院、厚岸の国泰寺。檀家のない寺院だった。アイヌ民族の改宗教化を目的とした。

ロシア（列強）の南下と幕府の北方政策		
西暦		事柄
1604	松前地と東・西蝦夷地	家康が松前氏に黒印状を与える
1643		オランダフリース艦隊がサハリン・千島を探検。厚岸に寄港。
1654		クナシリ場所の設置
1768		チェルニイがエトロフ島に現れる
1669		シャクシャインの蜂起後、起請文で絶対服従を強いる
1771		ロシア人が北千島を調査
1776		ロシアが松前藩に通商を申し入れるが、松前藩は拒否する
1783		「赤蝦夷風説考」（工藤平助）
1786		幕府大型船2隻で東西蝦夷地を調査。松前藩の対策不備が判明
1789		クナシリメシナの蜂起。「赤人（ロシア）」のつながりを危ぐ
1792		ラックスマンが幸太夫を伴い根室来航。蝦夷地開拓論が起きる
1796		イギリス海軍プロトンが虻田来航。噴火湾と命名する
1799		近藤重蔵が「大日本恵登呂府」の標柱を立てる
1799		幕府領
1800	八王子同心の「厄介」を鷗川、白糖に屯田する	
1804	レザノフが開国要求。蝦夷3宮寺（善光寺、等樹院、国泰寺）	
1806	ロシア人が樺太、千島、利尻で開国拒否の「報復」の暴行略奪	
1808	幕府、蝦夷全島を直轄領とする	
1809	間宮林蔵が「間宮海峡」を発見	
1811	クナシリでロシア艦長ゴローニンを捕える	
1813	高田屋の尽力でゴローニンを釈放	
1821	松前	幕府、蝦夷島を松前藩に返す
1831		外国船が浜中、有珠に来航し、守備兵と交戦する
1853	幕府領	プーチャーチン長崎に来航
1854		幕府が和人地を除き、東西蝦夷地を直領とする。日米和親条約、日露通商（領土）条約。 ペリー艦隊箱館に来航。箱館奉行を置く
1856		箱館開港。幕府が諸術調所を箱館に設置
1868	北海道	明治維新
1869		開拓使設置。蝦夷地を北海道と改め。11国86郡を置く
1875		樺太・千島交換条約を締結

(2) 旗本の「厄介」(二三男) 対策として、八王子同心を白糠、勇払へ入植させた。これは失敗した。

(3) 蝦夷3官寺」は「国教」である仏教を導入し、「国家領域」を明確にすることと同時にキリスト教対策があった。

(4) 正確な地図作成作業がなされ、千島列島や樺太さらには沿海州におよぶ「探検」(実情調査) が実施された。これは、アイヌの先導・協力があって初めて可能であった。

(5) 幕府の経営拠点、箱館に求められ、流通量は確実に上昇し、道南の今日的姿が現し始める。

(6) 幕府は蝦夷地経営の被害者は東北諸藩⁹³だった。それは「異域」としての蝦夷地を「内国」として交易にアイヌ撫育を位置付け、同時に東北6藩に一部の領地を与え、開発と防備を担わせるというものであった。幕末の再直轄領の政策は、欧米先進技術を導入し、蝦夷地の地場生産地化をめざし、明らかに明治の殖産興業的性格を持っていた。

⁹³ 幕領と同時に、津軽、南部両藩に東蝦夷地警備が命じられる。ロシア船の千島・樺太襲撃に際しては、津軽、南部、秋田、庄内、仙台、会津の各藩に出兵が命じられた。樺太警備の会津藩は4カ月もかかっている。(海保嶺夫)

⁹⁴ 松浦武四郎が6案(日高見、北加伊、海北、海島、東北、千島)を示し、北加伊が北海と改められ、北海道となったものとされている。武四郎は「夷人」はみずからその国をさして「加伊」と呼んでいたとされ、北海道の名づけにあたっては、アイヌモシリが踏まえられていたことになる。(菊池勇夫)

⁹⁵ 開拓使の設置は、北海道の内国植民地化を意味

四. アイヌの「歴史と主権」の黙殺 - 「旧土人保護法」の世界

この章は、別に学習が必要である。明治新政府のアイヌに対する基本政策のみを記述している。朝鮮に対する植民地政策を先取りするものと痛感した。

主権、言語・文化・伝統のすべてをはく奪

□「戊辰戦争」が終わると、明治新政府は蝦夷地開拓に本格的に乗り出すことになる。

蝦夷地は北海道⁹⁴と改称され、開拓使⁹⁵が1869年に置かれ11カ国86郡の国郡制⁹⁶がしかれた。

クナシリ・エトロフは千島国、北蝦夷地(サハリン)は樺太と改められた。

北海道庁が北海道と樺太の行政を行った。これらは、国家への一方的な統合⁹⁷であり、明治政府はアイヌ民族の歴史も主権も完全に黙殺し出発したのである。

「版籍奉還」は天皇と幕府・松前藩の間の話であり、アイヌモシリとアイヌは天皇に「奉還」される筋合いではなかった。

開拓使は、北海道を直轄とする他は、諸藩

する。すなわち、「貧民の移住」による国防から、資本主義を育成し、国防を強化する「資本の移住」への転換である。(宮島利光)

「不在地主」の大土地所有制が成立する。

⁹⁵ 渡島、後志、石狩、天塩、北見、胆振、日高、十勝、釧路、根室、千島。

⁹⁷ 「アイヌはアイヌモシリ、すなわち〈日本人〉が勝手に名づけた北海道を〈日本国〉へ売った覚えも、貸したおぼえもございません」(萱野茂、1988年2月、北海道収用委員会審議での意見陳述)

等の分領支配をめざしたが、「返上」が続いたが、北海道に仙台藩・亶理領 6 土族集団が移住⁹⁸することになった。

アイヌは「主権的地位」を失い、日本国民の中の一つの民族として生活させられる時代になったのである。

□開拓使は 1869 年、開拓使は場所請負制の廃止を布告⁹⁹した。

アイヌ民族の公文書上の表現は、幕末期の「土人」であったが、明治 9 年 (1876 年) 以降、「旧土人」が使用される¹⁰⁰ようになる。すでにアイヌという呼称の認識が広まっていたが、アイヌの呼称を採用しなかったのは、アイヌが固有の民族として自立することを恐れてのことであった。

1871 年、戸籍法が交付される。アイヌは、「創氏改名」¹⁰¹を強いられた。

「内国民」とする位置づけは、幕領期と新政府では異なった。すなわち、「介抱」「撫育」という幕領期の基本原則は、明治国家によって否定¹⁰²され、「回村賜物」「オムシャ」「生死手当」などは「一切他ノ人民ノ振舞」に相違するとし、廃止された。

□アイヌ民族に対する禁止事項が次々に布達された。いわゆる「同化政策」である。これらはアイヌの言語、文化、伝統のすべてをなく奪するものであった。

- ①死者が出た場合その家を焼く風習の禁止。
- ②男の耳輪、女の入れ墨の禁止。
- ③アイヌ語の禁止と日本語の強制。
- ④オムシャ（交易）の禁止。
- ⑤仕掛け弓や毒矢の禁止。
- ⑥テス網（川に網をはり、鮭の遡上を遮断して捕獲する）によるサケ漁の禁止。
- ⑦「免許鑑札」を受けた者以外のシカ猟¹⁰³の禁止。
- ⑧日本式姓名の使用の強制。

「旧土人保護法」による土地収奪

明治政府は、北海道全域を「無主の地」として国家のものにした。その上で移民者に対して土地に売り下げ、私有¹⁰⁴が認めることになる。アイヌ民族がイオルの慣習にもとづき、自由に大地へ行使できた権利が一方的に奪われ、狭められることになる。

「行き場」を失ったごときアイヌ民族に対し、明治政府は農耕民化を推進する。札幌

⁹⁸新天地をめざし、1300 戸、4700 人が伊達市、石狩郡当別、札幌市白石区、夕張郡栗山町に移住した。

⁹⁹ 「商人ノ身」でありながら、「諸場所土地人民ヲ始請負支配」しているのは、名分がたたない。請負人たちが嘆願状を提出し、名称が「漁場持」に改められ、廃止は 7 年後であった。旧請負人の一部は、拝借地が認められ、その後私有地として確定し、近代的な漁業経営者に転換をとげることになる。やがて、三井物産など近代的商業資本による海産物への進出がつかまっていく。(宮島利光)

¹⁰⁰ 戸籍上は平民として「同一」だが、区別しなければならないとき、「古民」「土人」「旧土人」と不都合なので「旧土人」に統一した。平民を「新平民」

とし、土人を「旧土人」とした呼称のように思われる。(菊池勇夫)

¹⁰¹ 戸籍編入によりアイヌも平民同様に苗字を持たされ、アイヌの「皇国の臣民化」が進められた。

¹⁰¹ ただし、「天長節（明治天皇誕生日）新年賜物」は見られた。(菊池勇夫)

¹⁰³ 明治 9 年。毒矢の使用が禁止され、鑑札代の猟業税は免除されたが、毎年 600 名に制限され、違反者への罰則は厳しかった。

¹⁰⁴ 「北海道土地売買規則」、「地所規則」(明治 8 年) および「北海道地券発行条例」(明治 10 年)

県（明治 18 年）では、1 戸 1 町部以上の地所を無代賃貸与し、初年には農具・種子を給与し、開墾させる方針をとった。この農耕民化の帰結が「旧土人保護法」（1889 年、明治 32 年）である。

(1) 1 戸あたり 15,000 坪（5 町歩）は、移民の 10 万坪に比べ、はるかに少なくしかも痩せた土地が多かった。土地は自ら処分できず、15 年未満の未開墾の場合は没収された。

(2) 「旧土人保護法」には、アイヌ児童のための「旧土人学校」（小学校）がアイヌの人口の多い地域につくられた。その教育目的は、民族文化の尊重や継承発展ではなく、その否定の上立つ「忠君愛国」のアイヌの「臣民化」にあった。

以 上

「アイヌ文化の基礎知識」

(別冊宝島 EX、1993. 9. 6 発行)

(アイヌ民族博物館監修、草風館、

1993.10.1 初版)

「アイヌ民族と日本人」東アジアのなかの

蝦夷地

(菊池勇夫、朝日選書 510、1994.9.25 初

版)

「資料と語る北海道の歴史」－中世・近世

篇－

(海保嶺夫、北海道ライブラリー23、北海道出版企画センター、昭和 60.3.15)

「アイヌ史断想」－エミシ・エゾとの接点

を求めて－ (

北構保男、北海道アイヌライブラリー24、

北海道出版企画センター 昭和 60. 7. 25 初

版)

「北海道創世記」(

松井癒、吉崎晶一、埴原和郎編、北海道新

聞社、昭和 59. 8. 25 発行)

「はたらくものの北海道百年史」

(北海道歴史教育協議会編、労働旬報社、

昭和 43. 12. 1 初版)

「アイヌと縄文」－もう一つの日本の歴史

(瀬川拓郎、ちくま書房、2016. 2. 10)

「雑学 北海道歴史の旅 (改訂版)」

(本多貢、北海道教育社、昭和 58. 6. 15 第一刷発行)

「アイヌの本」